

若者を岩手に引き寄せるために私達ができること

岩手県立大東高等学校3年 小野寺美優

私には14歳年下の妹がいる。10年後の岩手と聞いたときに、彼女が中学生になることが真っ先に頭に浮かんだ。その時、私は28歳になっている。大学を卒業し、働き始めて数年経っている。もしかしたら結婚し、家庭を持っているのかもしれない。28歳の私と18歳の現在の私では岩手に求める「幸せ」は違うのだろう。「学生」という立場にいる現在の私が考える「10年後の岩手の幸せ」は彼女が求める幸せに近いのだろうと思った。

現在の私の「10年後の岩手の理想の姿」は「活気と未来への希望に溢れた岩手」である。そのためには若者のエネルギーが不可欠である。少子高齢化や過疎化の影響は年々強くなっている。それでも、町で見かける若者の数は私が幼い頃よりも増えていると感じる。進学や卒業してすぐの就職で県外に進んでいた人がUターンで戻ってきたからだ。自分の学びたいこと、身に付けたい技能への夢の中には、岩手で叶えることが難しいものもある。私の同級生でも県外への進学・就職を希望する人は多い。自分の夢を叶えるために県外に出ることは必要な事だ。そして、力をつけた人々が故郷に戻ってくることで、若者の力を岩手で発揮することができる。いまから若い人材のUターンを支援していけば、10年後の岩手を支える大切な人材を確保することができる。そのためには、若者達が活躍できる場を岩手に作り周知してもらうこと、岩手を帰りやすい場所にする必要があると考える。

若者の岩手への定住を支援するために避けて通ることができないのは、「仕事」の課題である。せっかく住み始めたのに、仕事がなければ生活していくことができない。若者ならではの力を生かすことができる場があれば、仕事に関して都会レベルの魅力のある岩手になるだろう。そうすれば、岩手に住んでいる若者と同じ視点から見て、彼らが求めるものを提供することができる。そして若者の定住にさらに一歩近づけることができる。

私たち学生にできることは、岩手の「今」を発信することだろう。今の学生は進学や就職で県外に引っ越した先輩ともSNSで繋がっていることが多い。また、卒業後は自分の友人が県外に出るという人も多いだろう。そのように県外にいる人に向けて、岩手にいる人が「今、地元で起きていること」を発信する。どんなに些細なことでもいい。そうして県外にいながらに岩手・地元のことを知っていれば、久しぶりの里帰りでも近況を知らないことから起こる場違い感を覚えずに過ごすことができ、岩手が戻ってきやすい場になると私は考えた。また、一度岩手を離れたからこそ見えてくる「岩手の良さ」もある。SNSはそれに気づききっかけの一つになり得るだろう。

そして何よりも「岩手を大切にすること」が将来の岩手を守り、活気づけていくために欠かせないことだろう。確かに岩手は首都圏や仙台と比べると「田舎」というカテゴリにされてしまう。それでも、都会か田舎かを抜きにしての岩手の良い所は存在する。「田舎だから」とネガティブに考えてばかりでは何も進まない。皆が自分の住んでいるところを誇りに思っていれば、その土地の空気は自ずと良いものになるだろう。

10年後の岩手を支えるのは若者だ。自分もその一員にふさわしい人材となれるように努力したい。